

見附市 教育の基本理念

○ふるさと見附を愛する子ども ○世に役立つことを喜びとする子ども

教育目標 自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子

年度の重点目標 「見附小学校を「好き好きパワー」でいっぱいにする」

- 「友達が好き」「クラスがおもしろい」「また明日登校するのが楽しみだ」→いじめ・不登校減少へ
- 「この先生と勉強するのが好き」「わかった。できた。心を決めた。」→学力向上・体力向上へ
- 「自分自身のことがやっぱり好き」→明るい気持ちで自信も付く。他の人にもより優しくできる。

- 一つの生き物として動く学校
- COOLに対応し、うまく流れる学校
- 内部とも外部とも心がつながる学校
- 地域の教育を牽引する気概と内容ある学校

実生の輝きづくり
目の前の子どもの成長を生み出し、見つけ出す。
・形を変えて動きを変える…
…子どもを取り巻く環境を整えることが最大の教育活動

豊かな心と確かな絆づくり

◆思いやりの心を持ち、自ら考えて行動する子

- 異学年交流活動を活発化し、人間関係づくり能力を高める。
○他学年との交流活動
○児童会縦割り班活動、縦割り清掃の実施
○あいさつの習慣化を目指す取組
- 「特別の教科道徳」の充実を図る。
○規範意識や生命尊重、思いやりの心を育てる道徳の授業
- いじめを許さない学級づくり
○いじめ見逃しゼロスクールの取組

□学校内で進んであいさつ	90%以上 (90.9)
□地域の人に進んであいさつ	85%以上 (83.8)
□進んで清掃・仕事	95%以上 (95.0)
□自分によいところがある	85%以上 (85.4)
□仲間の役に立つ	80%以上 (87.9)

健やかな体と体力づくり

◆運動や健康のめあてに向かってやり遂げようと努力する子

- 進んで運動し、体力を高める子を育成する。
○運動量を確保した体育授業
○運動習慣の確立
○運動や遊びに広がりをもたせる取組
- よりよい生活習慣の確立を図る。
○睡眠時間の向上
○授業中の姿勢
○日々の体温・体調や歩くことへの関心の高まり

□週3回以上、進んで運動	85%以上 (91.1)
□めあてに向かって運動に取り組む	85%以上 (95.4)
□10時までに寝るか	70%以上 (69.5)

学力の向上を目指す授業改善

◆知識をつないで考える子

- 確かな知識技能の習得を図る。
○旧 Web 配信集計システムの活用 (授業づくりにも活用)
○学年テストの実施
○チャレンジタイムの充実
- 共に高め合う場のある授業づくりを進める。
○アクティブ・ラーニングを取り入れた授業づくり
○言語活動を重視した交流活動の充実
・授業モデルや話し方・聞き方スキルの活用、考えを練り上げる力、分かりやすく伝える力
- 学習習慣の確立
○家庭での自主学習の習慣化 ○読書習慣の定着

□NRT 国語・算数	56 以上 (国 55.3 算 56.5)
□話し方・聞き方スキルの自覚した活用	児童 80%以上 (84.0)
□学校外での読書	週4、5日以上 60% (42.9%)

ユネスコスクール
見小っ子ガーデン
マイフラワーPJ
自分の花
エコ活動
SDGs

四つ葉運動
あいさつ
読書
花と緑
お手伝い

特別な教育的ニーズに応じた支援の充実

- 個別の指導計画
- 合理的配慮の提供

共創郷育 ～地域の人材と資源を活用した教育の充実～

◆コミュニティ・スクール ～「地域に学び、地域でつながり、地域を創る学習」の展開～
「見小の学校づくりを語る会」の中に、学校運営協議会、地域学校協働本部、学校評価部を位置付け、学校、家庭、地域が一体となった教育を進める。

◆愛育会との連携
自ら学び、進んで鍛え、共に伸びる愛育会

【新型コロナウイルス感染防止対策に係る見小五か条】

- 状況に応じて柔軟で、関連性を持たせた教育課程
- 気持ちも伝える学校内外との率直な情報交換
- 子どもと向き合う → そして、子どもの声を生かす
- スピード感、リズム感、適時を大切にする
- カッコつけている場合ではない → HELP!と言える学校へ

信頼と安心が全ての教育活動の基盤



2021年度 見附小学校 学校経営の方針

【新型コロナウイルス感染防止対策に係る見小五か条】

- 状況に応じて柔軟で、関連性を持たせた教育課程
- 気持ちも伝える学校内外との率直な情報交換
- 子どもと向き合う → そして、子どもの声を生かす
- スピード感、リズム感、適時を大切にする
「VUCAの時代」+「ウイルス禍」をOODAサイクルで生き抜く学校
- カッコつけている場合ではない → HELP!と言える学校へ



◎見附小学校が、こんな学校だったらいいのになって思っていますよね。



一つの生き物として動く学校	COOLに対応し、うまく流れる学校	内部の人とも外部の人とも心がつながる学校	地域の教育を牽引する気概と内容ある学校
<p>児童数 528 学級数 27 教職員 56 →大規模校ではない。 「各パートがそれぞれに業務を行い、結果的に総体として成果を上げる時代」から、「ネットワークがつながり一つの生き物として動いていく時代」へ変化してきている。</p> <p>①各分掌に求められる機能は一律ではない。 消化器系。どんどんと必要な課題を飲み込み、処理し、血肉に替えて結果を出していく。 循環器系。仕事にいきいきと取り組み滞ることなく、さらに動き続けていくために、体に常に新鮮な血液や酸素を送り続ける。 自分の仕事の「肝」は何と考えるのか。</p> <p>②一つの生き物として動く以上、痛むところがあればかばって動くし、さすってやる。限られたもの、人、時間をどのように分配し、最大限の効果につなげていくか。 教育課程や校務分掌でさえ、つくりかえながら前進していくそんな柔軟性、強靭化を進める。</p>	<p>同じようにやっているのに、全く別の結果になることが世の中にはよくある。両者の「際」は何であるのか。</p> <p>①ものごとを始める前に、あらかじめの勝負は決している。 ・戦力の質と量を把握し、準備・理解、研究ができていくか。 ・もの・ひとの環境を整えておくことが教育の基本。 ・戦略をみんなが理解しているか。組織の隅々まで血は通っているか。 (野村克也常々曰く、「弱者こそ油断大敵」「野球は事前の準備が全て」「予感、予測、予防……この「予め」を大切にせよ」)</p> <p>②はじめ・なか・おわりのそれぞれを、COOLに抜かりなく行えるか。 ・スピード感、リズム感、そして「今ここで」というタイミング。 ・自然災害や感染症などの状況に応じて形(教育活動等)を変えていく柔軟性。レジリエンス。 ・適切な情報の出し入れ。把握集約⇄発信 情報が少ないと人は「不安」になる。</p>	<p>子どもも保護者も教職員も、みんな「生もの」。コトんとくれば協力的になる。過程や結果のイメージを鮮明にし、それを共有できれば、心に小さな火がつく。</p> <p>①気持ちも伝える率直な情報交換ができるかどうか。 ・単なる連絡でも、熱意の押し売りでもない「丁度よさ」。 ・相手の体温に合わせた情報提供、情報交換。 ・子どもと向き合う(微笑み、視線合わせ、頷き、オウム返し、そして共感)そして私はあなたに関心があるよと伝え続ける。 ・こちらのミスではないけれど、子どもや保護者の心が動揺したときや、クレームを言ってきたときは、「どうかその気持ちを収めてくださいね」といことで対応。 ・丁寧な保護者対応、接遇、適切なフォローで、学校の「応援団」を増やす。 ②カッコつけている場合ではない → HELP!と言える学校へ(上手に頼る) ・好きな学校、好きな先生なら応援したくなるのが人間だ。 →好き好きパワー</p>	<p>見附の見附小。地域の期待は大きい。リーダー校として一歩前に進み、胸を張って地域の教育を牽引する。 新しい学校づくりの実現のための視点について正対することで、教師が育つ。過去の財産を切り売りしてしのげる時代ではない。学び続ける教師でありたい。</p> <p>①働き方改革……人は人との間で学び育っていく。 ・限られた在校時間。一つ一つのOJTをレベルアップしていくことなしに人は育たない。力がつかない。 ・自分のミッション、自身の研鑽計画をもち課題解決する職員。 ・求めれば人と人はつながる。今日爆発的に拡大するリモート研修の機会。</p> <p>②GIGA……場を決めて、まずは使い始める。そうしないと進まない。できることから。電子黒板導入時もそうでしたよ。</p> <p>③新COS……資質、能力が高まる授業とは。偏差値の向こう側へ。どんな子どもの育成を私たちは目指しているのか。</p> <p>④通級指導教室 ⑤150周年事業 ⑥SDGs</p>

教育観の転換

同調性圧力からの解放	正解主義からの脱却	二項対立の陥穽に陥るな
<p>エスニックジョーク タイタニック 船長が海に飛び込むよう男性乗客を説得した。 イギリス人に 今飛び込めばジェントルマンになれますよ。 イタリア人に 今飛び込めば女性にもてますよ。 アメリカ人に 今飛び込めばヒーローになれますよ。 ドイツ人に 飛び込むまじりになっているんですよ。 日本人に もう皆さん飛び込んでいますよ。 横並びで、誰かと合わせないと……「多数意見への盲目的な賛意」から他の人とは違うユニークな表現が評価される時代へ それならば自分だったなら、この事案に、こうアプローチしますよ。 五人目のバスケット選手は何を考えているのか。「次のプレー」の準備をする人に。</p>	<p>①正解を導き出す力ではなく 納得解を導き出す力を(情報編集力)要素と要素の関係性に目を向けて、状況に合った解を出す頭の柔らかさ ②パターン認識など短絡的な思考ではなく 複眼思考を「ルールだから」「これまでそうだった」→他の見方もあるかもしれないと考える力 ③受動的で素直に吸収するのではなく そうかなぁと考える力 子どもたちの前に立つ私たち自身が、クリティカルシンキングをする真の主権者であれ。 ①目的は何かを常に意識する。枝葉末節にこだわりすぎない。 ②自他の思考にくせがあることを前提に、自分をアップデートする。 ③問い続ける。そして、本質に接近していく。</p>	<p>中央教育審議会では、令和3年1月26日の第127回総会において「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)を取りまとめた。その答申案には次の一節が記されている。「一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった、いわゆる「二項対立」の陥穽(かんせい=落とし穴)に陥らないことに留意すべきである。どちらかだけを選ぶのではなく、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせ活かしていくという考え方に立つべきである。」 しかし、考えてみれば、いいとこ取りのハイブリッド型の融合文化は日本人の得意分野なのかもしれないし、弁証法的に「正⇒反⇒合」と新しい考えを生み出していくチャンスととらえることもできる。さらに、金太郎飴でなく地域、学校の実情に応じた個別の取組が求められているようにも感じている。まずは、新しい時代の新しい教育を創るために、自分自身の前例踏襲のこだわりを捨て、合理的・論理的に考え、合意形成していく努力を続けていく構えをもって前進しよう。</p>